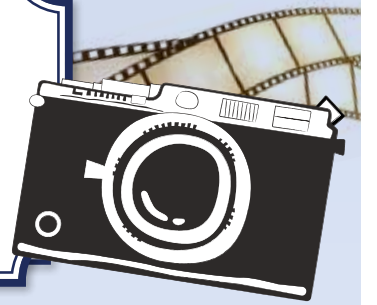


写真で振り返る 市役所庁舎ヒストリー



昭和45年に現在の庁舎が完成し、今年で48年が経過します。建物の耐用年数とされる50年が迫り、老朽化や耐震性などに課題があります。市議会は平成29年5月に新庁舎整備検討特別委員会を設置し、新庁舎の整備に向けた検討を進めています。そこで、市役所の旧庁舎、現庁舎について、過去の資料をもとに振り返ります。



西魚町(現在の町2丁目)にあった旧庁舎(上)(右)



西魚町(現在の町2丁目)にあった旧庁舎は、大正11年に建設されました。その後は必要に応じて毎年のように増築を重ねた結果、本庁舎内だけでも18棟に分散しました。そのため、市民サービスは低下し、業務にも多大な支障をきたしていました。

迷路のような庁舎の汚名を返上し、市民サービスを向上させるため窓口の集中化を図るとともに、人口が昭和36年の13万1660人から昭和45年には20万754人へと増加の一途をたどっていたため、さらに飛躍する住宅産業都市として、新しい時代の行政水準を目指し、現在の庁舎を建設することになりました。

昭和42年6月16日、市議会は、市庁舎建設対策特別委員会を設置し、建設地の選定など具



完成した頃の現庁舎

体的な検討を始め、候補地としては

- ① 現地(西魚町)で建て替える
 - ② 明石小学校
 - ③ 西明石付近
 - ④ 中崎埋立地
- が挙げられました。

昭和43年5月31日の委員会では、敷地面積が十分に確保できること、海に近く明石の特色を強く主張できること、近隣の商店街振興の一助になることなどから、建設地を④中崎埋立地に決定しました。庁舎の設備については、市民の声が反映されるように「みんなの市役所・アイデア募集」が行われました。

以前は、本庁舎窓口棟の屋上に庭園があり、現在の立体駐車場場辺りには噴水などもありました。



本庁舎の北側にあった噴水(昭和54年撮影)



真新しい本庁舎2階の窓口(上)とロビー(下)

市民は、立地面や機能面など、どのような庁舎を求めているのでしょうか。今後の特別委員会の動向に注目してください。